

Esquire

エスクァイア日本版

OCT. 1999 Vol.13 No.10

700yen 10

モダン家具と和みのとりあわせ、20件のショップガイド付き
東京イタリアン暮らし。

デザイン都市、
ミラノを旅する。

ミラノ建築逍遙。／ヴィスコンティ一族の文化遺産。
『ドムス』とイタリアンプロダクツの20世紀。

ミラノから訪ねる美食の旅。
郷土料理と食材、そしてワインを求めて。

Giovanni Levanti

ジョヴァンニ・レーヴァンティ

Piero Lissoni

ピエロ・リッソーニ

Kazuyo Komoda

森田和世

Paolo Zani

パオロ・ザーニ

Denis Santachiara

デニス・サンタキアラ

I Creatori del Nuovo Design Italiano

イタリアン・デザインの新しき先駆者たち。

デザインをスタイルで語る時代は、ある意味で幸福だった。しかし、デザインがムードメントでなくなって久しい今、モノづくりは個人の思考法やファンタジーに裏付けされている。ここでは、それぞれが異なった方法で、現代におけるモノづくりを思考、模索しているミラノ在住のデザイナー、5名と彼らの作品を紹介しよう。情報を選択するように生活の中のデザインを選ぶこと。モノが氾濫する生活の中で、忘れがちだが大切なこの行為を彼らが教えてくれる。デザイン、あるいはノーデザインが頻繁に語られる今、もう一度イタリアン・デザインについて考えてみよう。

田代かおる=文

text by Kaoru Tashiro

木村キンタ=写真

photographs by Kinta Kimura

今年4月に開催されたミラノ・サローネ（国際家具フェア）で、カンペッジ社から発表されたある若手デザイナーの作品が世界的な注目を浴びた。プロジェクトの名はXITO。シトとは場所の意である。

ソファーやカーペットとも定義できない、柔軟な家具。ここでは、本を読んでも寝寝をしていい、コンピュータを使って仕事をする人もいるだろう。そして子供がその上で遊ぶこともできる。これは文字通り、ものごとが生じる「場所」として考えられた家具なのだ。

デザイナーである、ジョヴァンニ・レーヴァンティは、このプロジェクトの誕生を思い出してこう語る。

「カンペッジ氏がある日僕に電話をかけてきて話し始めた。「従来の枠組みにとらわれない、勇気あるプロジェクトが欲しいんだが……」と。

その一言だけで、もうプロジェクトは歩き始めた。何をデザインするかも決まっていなかつたから、それ以降は彼と、現在のデザインが抱えている問題や、プロジェクトの可能性を話し合って進めてきたんだ。とてもイタリア的な方法で……」

こうして、生まれ出されたシトの革新性は、因習的な家具のカテゴリーにあてはまらない、というだけでなく、インテリアの概念を超えた、新しい「場」を生み出したことがある。

それだけに、ヨーロッパの伝統的な住居にこの作品が受け入れられるかどうかという不安もあった。

しかし発表後、賞賛の声が上がったのは家庭からだけではなかった。

ヨットのデッキに、企業の社員リラックス・ルームに置きたい、保育園の家具として使いたい、などさまざまリクエストがあり、デザイナーシトとは場所の意である。

ソファーやカーペットとも定義できない、柔軟な家具。ここでは、本を読んでも寝寝をしていい、コンピュータを使って仕事をする人もいるだろう。そして子供がその上で遊ぶこともできる。これは文字通り、ものごとが生じる「場所」として考えられた家具なのだ。

デザイナーである、ジョヴァンニ・レーヴァンティは、このプロジェクトの誕生を思い出してこう語る。

「カンペッジ氏がある日僕に電話をかけてきて話し始めた。

「従来の枠組みにとらわれない、勇気あるプロジェクトが欲しいんだが……」と。

その一言だけで、もうプロジェクトは歩き始めた。何をデザインするかも決まっていなかつたから、それ以降は彼と、現在のデザインが抱えている問題や、プロジェクトの可能性を話し合って進めてきたんだ。とてもイタリア的な方法で……」

こうして、生まれ出されたシトの革新性は、因習的な家具のカテゴリーにあてはまらない、というだけでなく、インテリアの概念を超えた、新しい「場」を生み出したことがある。

それだけに、ヨーロッパの伝統的な住居にこの作品が受け入れられるかどうかという不安もあった。

しかし発表後、賞賛の声が上がったのは家庭からだけではなかった。

る暖かいあかりとなつて部屋を満たしてくれる。

ひかりと色、という原初的な要素。ページを繰る、という原初的な行為。

それを我々の生活に最も身近なかたちで回復してくれる。

「大声で主張するのではなく、ゆったりと語り掛けてくるような、作品を作つていきたい」

レーヴァンティはそう控えめに言つた。しかし、彼が作り出す作品はい



ジョヴァンニ・レーヴァンティ
1956年、パレルモ生まれ。パレルモ大学建築学部卒業後、ドムスアカデミーで学ぶ。アンドレア・ブランツィのスタジオを経て、90年、フリーとしての活動を開始。現在、デザイン活動と平行して、ドムスアカデミーでデザインを教えている。



すれも、置かれた部屋の周囲にある家具を緩やかに挑発し、場所の空気感を変化させる可能性を孕んだ力も持っている。

頻繁にデザインが語られ、ものが増殖する一方の現在。「ひと」と「もの」の間にあるボエジーと感応力を新たに呼び覚まして、時と共に色褪せず、人に愛着を抱かせるものを生み続ければ……これ以上力強いデザイナ力はないはずである。（3）

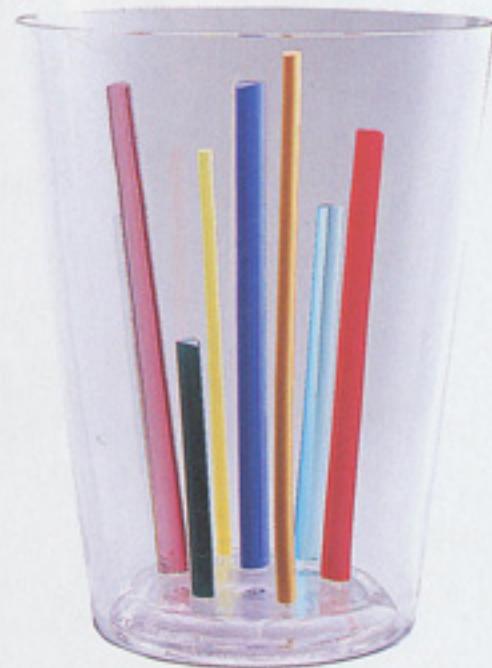
「ゆったりと語り掛けてくるような、作品を作つていきたい」



●ジョヴァンニ・レーヴァンティ



Giovanni Levanti

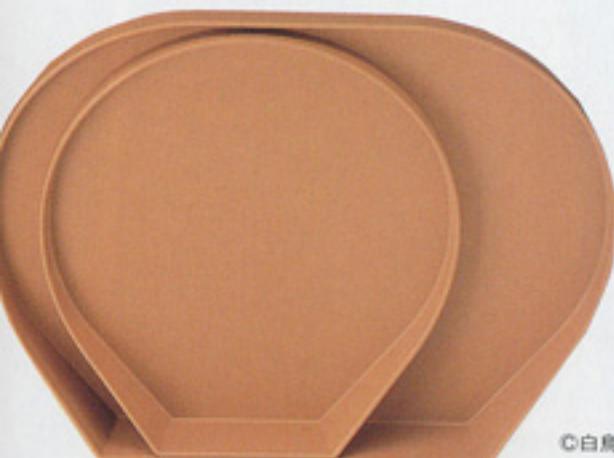


CROMATICA

クロマティカ。カラーブックのページを縁ることで、反射するひかりのニュアンスに変化をもたらすスタンド。レーヴァンティ・デザインらしい、想像力を喚起させる作品だ。構造は極力シンプルで、中心の軸とブックスタンドだけで支えられている。h.55cm、590,000リラ。Domo dinamica

STELO

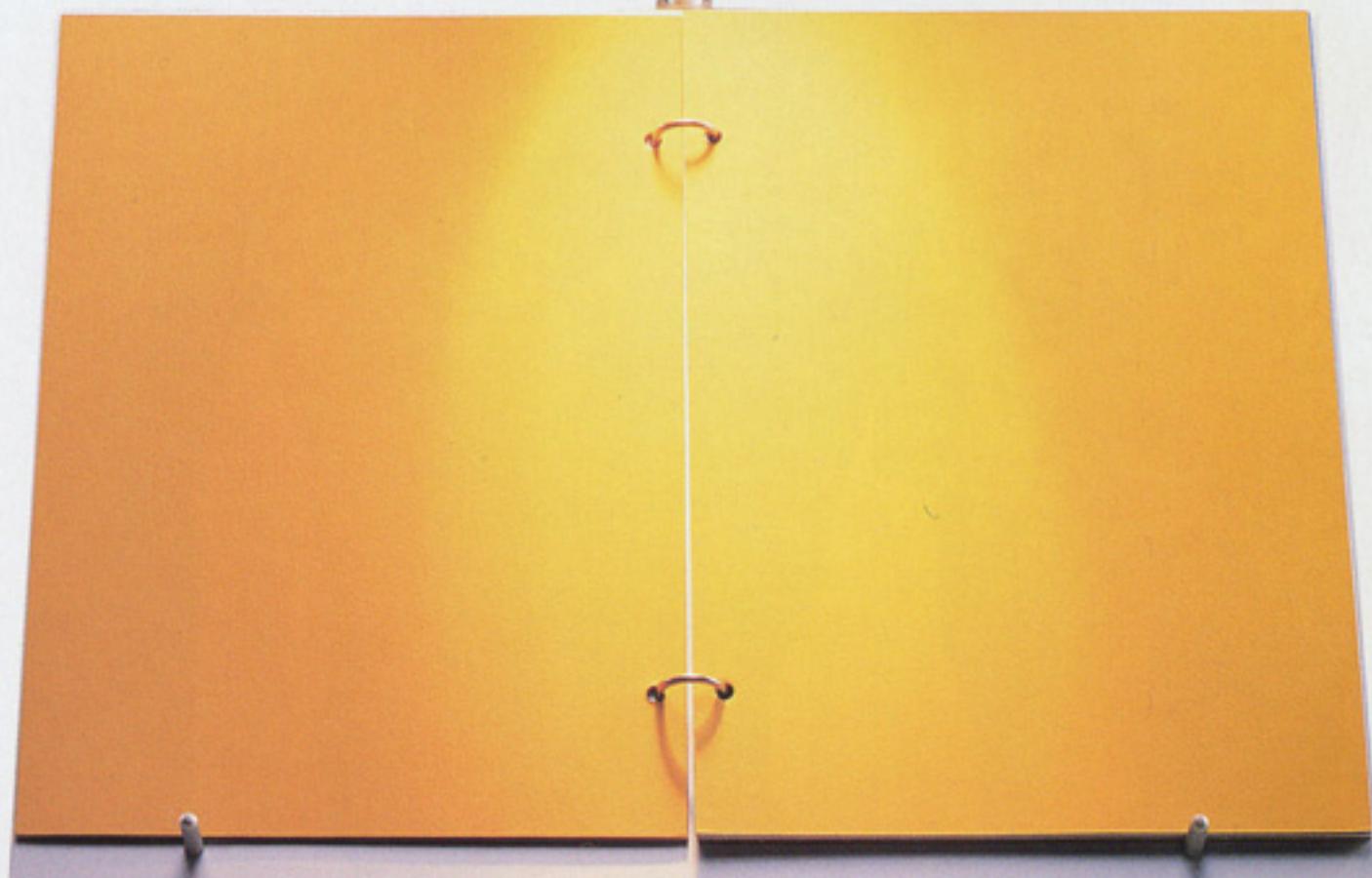
ステロ。ヴェネツィアン・グラスの高級メーカー、サルヴィアーティ社のためにデザインしたベース。カラーのガラス・スティックの配置は、使い手自らがコンボジションできる。中に水を差しても美しいが、このまま飾っておいても十分な存在感だ。h.30cm、1,010,000リラ、h.40cm、1,590,000リラ。Salviati



©白鳥英雄

ITALO

イタロ。使っていない時のトレーの置き場に悩んだことは、誰もあるのでは？立つトレーなら場所をとらない。むろん使う時も美しい。パーソナル・トレーにもなるように、縁が一方は低くなっている。日本のメーカー、マルトミのためのデザイン。



XITO

シト。ミラノ・サローネで話題を呼んだ、多機能の場を生む家具「シト」。リクライニング調節、全倒しも可能。この場所をどう使うかはユーザーのアイデア次第。内部：ポリウレタン、ポリエステル、カバー：コットン、210x135cm、h.14cm。Campeggi